



# “ジュネーブから今を見る” 今日のヘッドライン

アジア

2018年3月19日

## 習近平の側近も重要ポジション確保

憲法改正により習近平国家主席の政権基盤が強化されると共に、側近は重要な「役割」を獲得しています。特に習近平氏側近の王岐山氏が副主席として外交を担当、習近平氏の米国外交への関心の高さをうかがわせます。

### 中国全国人民代表大会：閉会を前に、習近平体制を固める人事が続々公表される

中国の国会にあたる全国人民代表大会は2018年3月18日の全体会議で、李克強首相を再選し、19日には李克強首相が指名した新たな閣僚らを承認しました。副首相に習近平国家主席の経済ブレーンの劉鶴氏ら4人を起用、副首相級の国務委員には、王毅氏が外相兼務で昇格しました(図表1参照)。中国人民銀行(中央銀行)総裁には留学経験もあり、10年以上、人民銀副総裁を務め、海外とのコンタクトも多く、実務能力に定評のある易綱氏が指名されました。

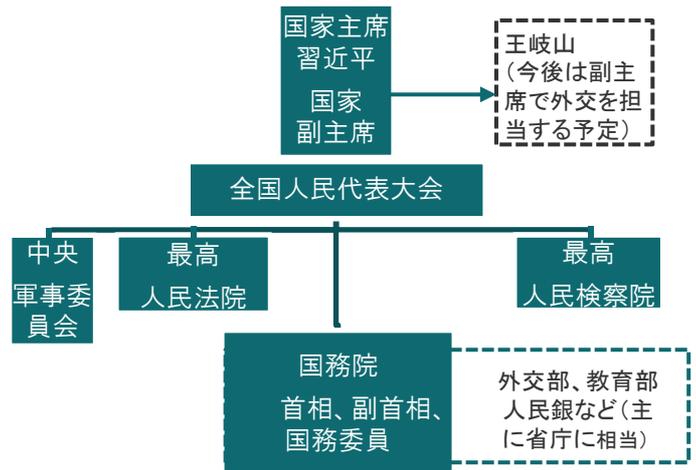
### どこに注目すべきか：

#### 国家副主席、中央規律検査委員、米中外交

今回の全人代の主要人事が明らかになりつつあります。憲法改正により習近平国家主席の政権基盤が強化されると共に、側近は重要な「役割」を獲得しています。特に習近平氏側近の王岐山氏が副主席として外交を担当することは、習近平氏の米国外交への関心の高さをうかがわせます。途中経過ながら、全人代の主要人事では昨年の共産党大会で引退した(ように見えた)王岐山氏(図表2参照)が国家副主席に指名されました。以前、中央規律検査委員として王岐山氏は当時懸案であった汚職摘発を先導してきました。今後は国家副主席として、中国最大の関心事と見られる外交を担当する運びです。なお、中国の国家副主席は立場があいまいで名誉職の場合もありますが、今回はタイトル名通り、実質的に主席に次ぐ扱いとなりそうです。中国では、本来、共産党内の序列で地位が決められ(図表2参照)、ナンバー2は李克強首相ですが、形だけのナンバー2となりそうです。一方、新たな汚職摘発機関として、国家監察委員会の初代トップにも習近平側近の一人である楊曉渡・政治局員を選出しており、手綱を緩める気はなさそうです。

経済政策は副首相に指名された劉鶴氏が中心になると見られます。中国人民銀行(中央銀行)総裁は易綱氏が指名されましたが、役職(中央委員候補)が低いのは気懸かりです。

図表1：(参考)中国国家機関組織図のイメージ



図表2：(参考)中国共産党組織図のイメージ



※図表1.2は主な役職、機関名のみを記載  
出所：外務省、各種報道等を参考にビクテ投信投資顧問作成



ピクテ投信投資顧問株式会社

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。